

平成 29 年度 九州栄養福祉大学・大学院 教員情報

【リハビリテーション学部 作業療法学科】・【健康科学研究科 健康栄養学専攻】

オオマル ミユキ
大丸 幸

OHMARU Miyuki 教務部長・学生部長・教授

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科	
担 当 科 目	<p>【リハビリテーション学部 理学療法学科、作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域保健学 ・北九州市のノーマライゼーション (ESD) <p>【リハビリテーション学部 作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法学概論 ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ ・急性期精神障害作業療法学 ・作業療法研究法 ・医療安全管理学 ・地域作業療法学 ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ (旧カリキュラム)、臨床実習Ⅴ <p>【食物栄養学部 食物栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション概論 <hr/> <p>【九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康科学研究法特論演習 ・リハビリテーション学特論Ⅰ ・地域活動支援特論Ⅰ、地域活動支援特論Ⅱ 	
専 門 分 野	<p>■地域リハビリテーション (地域作業療法学：精神・身体・知的/発達障害、高齢者)</p> <p>■地域保健と障害福祉</p> <p>■行政学</p>	
最 終 学 歴	<p>労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校作業療法学科卒業 (1969)</p> <p>米国カンサス大学作業療法学科留学 (1971)</p> <p>北九州大学外国語学部米英学科Ⅱ部卒業 (1979)</p>	
学 位	英米学士	
職 歴	<p>医療法人恵愛会福岡病院 (作業療法部門開設) (昭和 44 年～昭和 46 年)</p> <p>労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校 (講師) (昭和 46 年～昭和 54 年)</p> <p>(昭和 46 年～昭和 47 年 労働省奨学生 米国カンサス大学 特別学生留学)</p> <p>医療法人幸仁会阪本病院 (作業センター長) (昭和 54 年～昭和 56 年)</p> <p>北九州市 (保健福祉局) (昭和 56 年～平成 23 年)</p> <p>北九州市保健福祉局デイケアセンター (主査) (昭和 56 年～平成 8 年)</p> <p>北九州市小倉南区役所年長者相談コーナー (主査) (平成 8 年～平成 10 年)</p> <p>北九州市保健福祉局テクノエイドセンター (係長) (平成 10 年～平成 12 年)</p> <p>更生相談所地域リハビリテーション (係長) (平成 12 年～平成 13 年)</p> <p>更生相談所障害福祉係・地域リハ係・障害認定係 (所長) (平成 13 年～平成 23 年)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授</p> <p>九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科 教授 (平成 23 年～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス 学生部長・教務部長 (平成 24 年～現在に至る)</p>	

大学教員職歴	名古屋大学非常勤講師 (精神科作業療法学) 長崎大学非常勤講師 (精神科作業療法学) 熊本保健科学大学非常勤講師 (家族機能評価・支援学) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授 九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科 教授	(平成 54 年～昭和 56 年) (昭和 56 年～昭和 57 年) (平成 21 年～平成 23 年) (平成 23 年～現在に至る) (平成 23 年～現在に至る)
教育上の業績	1 教科担当科目 「精神科作業療法学」、「地域保健学」、「地域作業療法学」、「医療安全学」、「臨床心理学」、「急性期精神科作業療法学」、「リハビリテーション概論」、「リハビリテーション学特論」、「北九州市のノーマライゼーション」、「作業療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「作業療法研究法」、「作業療法卒業研究」、「作業療法基礎演習」、「作業療法専門演習」、「臨床実習Ⅲ」、「臨床実習Ⅳ」、「臨床実習Ⅴ」	
	2. 作成した教科書・教材 ○ 「精神科臨床サービス」 (分担執筆) (星和書店 平成 19 年) ○ 「作業療法学全書 第 5 巻 作業治療学 2 精神障害」 (分担執筆) (協同医書出版 平成 22 年) ○ 「作業療法白書 2010」 (分担執筆) (日本作業療法士協会 平成 22 年) ○ 「服部リハビリテーション技術全書 第 3 版」 (分担執筆) (医学書院 平成 26 年) ○ 「精神機能作業療法学 (第 2 版)」 (分担執筆) (医学書院 平成 26 年) ○ 「地域包括ケアシステムにおける PT・OT の役割」 (分担執筆) (文光堂 平成 28 年) ○ 「行政リハビリ専門職のための手引き」 (分担執筆) (一般財団法人 公衆衛生協会、平成 28 年) ○ 「日本公衆性衛生協会委託事業年度報告書：行政の理学療法士、作業療法士が関与する効果的な事業展開に関する研究」 (分担執筆) (日本理学療法士協会、日本作業療法士協会 2006 年～現在に至る)	
	3. 専攻分野、研究分野の学会等における発表実績 ○ 「家族や生活環境を背景にした個人史や生き様に触れていく精神科作業療法」 臨床精神科作業療法研究会主催 (研修会講師、発表事例のコメンター) ,2009 ○ 「活動概念図を用いた市町村の理学療法士、作業療法士の役割遂行に関する聞き取り調査」 第 69 回日本公衆衛生学会, (口述発表) ,2011 ○ 「地域保健への作業療法士の関わり～医療と地域ケアの連携促進要素の検討」 第 47 回日本作業療法学会, (口述発表) ,2013 ○ 「障害がある人と家族が共に生きる地域社会づくり～家族の力、作業の力、つながる力」 第 47 回日本作業療法学会, (市民公開シンポジウム,コメンター) ,2013, ○ 「作業療法士・理学療法士が関与する地域包括ケアの仕組みづくり (Comprehensive Programs on Community Health Report in Japan :Role of Occupational And Physical Therapists For integrated Community Care System)」, 第 16 回世界作業療法士連盟大会 (16th International Congress of the World Federation of Occupational therapists in Collaboration with the 48th Japanese Occupational Therapy Congress and Expo) 日本開催 (口述発表) ,2014 ○ 「高齢・障害者の福祉用具ニーズ把握と福祉用具流通の発展」 日本技術士会・技術講演, (シンポジウム,シンポジスト) ,2014 ○ 「日本と世界の作業療法の動向」,福岡県作業療法協会主催 (現職者研修会講師) (平成 22 年～現在に至る) (年 2 回開催) ○ 「急性期精神科作業療法」,日本作業療法士協会主催 (専門認定作業療法士指定研修会講師) , (平成 24 年～平成 28 年) (年 2 回開催) ○ 「地域に求められるセラピスト」,四国医療専門学校主催 (卒業記念講演会講師) ,2016	

	<p>○「精神障害作業療法の基礎知識」 「精神障害作業療法関連のトピックス」 熊本県作業療法士会主催：(現職者研修会講師) ,2017</p> <p>○「リハビリテーション教育事始め」,九州栄養福祉大学主催 (日本リハビリテーション発祥地記念館、九州リハビリテーション大学校記念館開館記念シンポジウム,シンポジスト) ,2017</p>
主な研究活動	<p>(1) 地域リハビリテーション研究活動</p> <p>「公的給付における福祉用具評価システムに関する調査研究」 厚生労働省委託研究事業 (福祉用具臨床的評価認証委員会委員) ,2004~2009</p> <p>「精神障害者の退院促進および円滑な地域移行のための地域支援体制構築に向けた研究」 厚生労働省委託研究事業 (研究委員) ,2006~2008</p> <p>「福岡県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会」 福岡県主催 (研究委員) ,2006~2010</p> <p>「高齢者の持てる能力を引き出す地域包括支援のあり方研究」 老人保健健康増進等事業 (厚生労働省委託研究事業) ,2008~2009</p> <p>「医療観察法における医療の質の向上に関する研究 (多職種チームによる医療の実際と効果に関する分担研究)」 厚生労働省科学研究 (研究委員) ,2010</p> <p>「障害者福祉サービスに対する親の会メンバーの福祉ニーズに関する日韓比較」 北九州障害福祉研究センター「研究レポートNo.4」,2012</p> <p>「行政の理学療法士、作業療法士が関与する効果的な事業展開に関する研究」, 日本公衆性衛生協会委託事業 (日本理学療法士協会・日本作業療法士協会合同研究事業：研究委員) (平成18年~現在に至る)</p>
	<p>(2) 九州栄養福祉大学 研究紀要 投稿</p>
	<p>「北九州市における地域リハビリテーションの歩み~九州リハビリテーション大学校が果たした歴史的役割」(九州栄養福祉大学研究紀要 8 : 235-246,2011)</p>
	<p>「作業療法・理学療法的視点から捉える「食べること」のリハビリテーション学的意味 ~地域で暮らす高齢・障害者の事例および食のための身体機能分析から」 (九州栄養福祉大学研究紀要 9 : 191-202,2012)</p>
	<p>「リハビリテーションプロセスにおける家族心理教育~高次脳機能障害者の家族支援の意義」 (九州栄養福祉大学研究紀要 10 : 87-102,2013)</p>
	<p>「司法精神科作業療法の卒前教育への取り組みと技術」 (九州栄養福祉大学研究紀要 11 : 109-118,2014)</p>
	<p>「司法精神科作業療法の卒前教育への取り組みと技術」 (九州栄養福祉大学研究紀要 11 : 109-118,2014)</p>
	<p>「リハビリテーション学部オープンキャンパス参加者へのアンケート調査と入学志望向上への一考察 (第一報)」(九州栄養福祉大学研究紀要 11 : 63-80,2014)</p>
<p>「北九州市のノーマライゼーション~医療機関・自治体・住民との三位一体活動~」 (九州栄養福祉大学研究紀要,57-64,2015)</p>	
<p>「リハビリテーション学部学生における防犯意識と危険ドラッグに対する意識」 (九州栄養福祉大学研究紀要,27-38,2015)</p>	
<p>「作業療法教育に必要な指導観 (第1報) -専門学校と大学の比較-」 (九州栄養福祉大学研究紀要,105-114,2015)</p>	
<p>「寮生活に対する寮生の満足度調査」(九州栄養福祉大学研究紀要,75-79,2015)</p>	
<p>「地域で求められる作業療法士の役割 ~身体障害者(児)への補装具の関わりを通じた在宅生活支援の事例より~」 (九州栄養福祉大学研究紀要,223-228,2016)</p>	
<p>「作業療法教育に必要な指導観 (第2報) -専門教育の中でのアクティブ・ラーニングについて-」 (九州栄養福祉大学研究紀要,265-273,2016)</p>	

	「リハビリテーション学部における就職支援について～学生に対する意識アンケートの分析から～」 (九州栄養福祉大学研究紀要,195-205,2016)
	(3)【執筆教科書等(再掲)】
	「精神科臨床サービス」(分担執筆) (星和書店 平成19年)
	「作業療法学全書 第5巻 作業治療学2 精神障害」(分担執筆) (協同医書出版 平成22年)
	「作業療法白書2010」(分担執筆) (日本作業療法士協会 平成22年)
	「服部リハビリテーション技術全書 第3版」(分担執筆) (医学書院 平成26年)
	「精神機能作業療法学(第2版)」(分担執筆) (医学書院 平成26年)
	「地域包括ケアシステムにおけるPT・OTの役割」(分担執筆) (文光堂 平成28年)
	「日本公衆性衛生協会委託事業年度報告書:行政の理学療法士、作業療法士が関与する効果的な事業展開に関する研究」(分担執筆) (日本理学療法士協会・日本作業療法士協会合同研究事業 平成18年～現在に至る)
	(4)【専門雑誌、研究報告書等(執筆)】
	「作業療法の臨床技法をデイケアで生かすには、精神科臨床サービス7」 (星和書店,447-449,2007)
	「精神障害者に対する住まうことへの支援」 (作業療法ジャーナル,619-623,2007)
	「行動変容(私も変わったー治療者・援助者の立場から、日常性の中にこそ変化がある)」 (作業療法ジャーナル,2010)
	「死と生にどう向き合うか～遺された家族、職場、支援者を支える取り組みや考え方について」 (作業療法ジャーナル,1516-1520,2012.)
	「行政の理学療法士、作業療法士が関与する効果的な事業展開に関する研究(日本公衆性衛生協会委託事業)」 日本理学療法士協会・日本作業療法士協会合同研究事業 (平成18年～現在に至る)(年度報告書:分担執筆)
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生省理学療法士作業療法士国家試験委員 (昭和54年～昭和64年) ・福岡県作業療法協会副会長 (昭和57年～平成8年) ・日本デイケア学会理事 (平成7年～平成21年) ・日本作業療法士協会理事 (平成7年～平成25年) ・医療法人恵愛会福岡病院 (九州リハビリテーション大学校精神科実習地第1号) 同門会会長・顧問 (平成7年～現在に至る) ・日本公衆衛生協会地域保健総合推進事業委員 (平成8年～現在に至る) ・第37回日本作業療法学会学会長 (平成15年) ・財団法人テクノエイド協会評議員 (平成18年～平成24年) ・福岡県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会委員 (平成20年～平成23年) ・北九州市発達障害児(者)支援体制整備検討委員会委員 (平成22年～平成23年) ・社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会日韓協同研究アドバイザー (平成23年～平成24年) ・北九州市障害支援区分認定審査会委員 (平成24年～現在に至る) ・北九州市地域包括支援センター委員会委員 (平成25年～現在に至る) ・日本デイケア学会理事 (平成26年～現在に至る) ・北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議構成員 (平成29年～平成32年〔予定〕) ・福岡県介護実習・普及センター事業等企画書選定委員会委員 (平成29年)
所属学会	<ul style="list-style-type: none"> 日本作業療法士学会 日本公衆衛生学会 日本デイケア学会 日本認知症予防学会

資格・免許等	作業療法士免許証 昭和44年7月21日,登録番号 第10043号(昭和54年8月10日戸籍の変更により書換) 精神保健福祉士登録証 (平成11年5月26日,登録番号 第01061号) 介護支援専門員 (平成11年5月26日,登録番号 第40981121号) 福祉用具プランナー (平成12月11月25日,登録番号 第12-1320号) 認定作業療法士(認定番号15)平成16年4月,認定番号 第15号 (平成26年更新)
受賞歴	日本作業療法士協会 協会表彰 (平成13年6月) 厚生労働大臣表彰 作業療法業務功労者 (平成28年9月)

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科	
担 当 科 目	〔リハビリテーション学部 作業療法学科〕 <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法学概論 ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ ・作業療法研究法 ・医療安全管理学 ・身体障害作業療法学Ⅱ ・高次脳機能障害作業療法学 ・臨床作業療法学演習Ⅰ ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ 	
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■身体障害領域における作業療法（脳血管障害） ■日常生活活動 ■高次脳機能障害 	
最 終 学 歴	日本福祉大学 情報経営開発専攻 博士後期課程単位取得退学	
学 位	修士（人間環境情報）	
職 歴	<p>労働福祉事業団 九州労災病院就職（平成2年9月まで） (昭和56年4月)</p> <p>誠愛リハビリテーション病院 就職 作業療法課課長 (平成2年10月)</p> <p>誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部・研究部次長 (平成6年10月)</p> <p>誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部 副部長 (平成13年4月)</p> <p>誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部 部長 (平成20年4月)</p> <p>誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部 副院長 (平成24年5月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授 (平成28年4月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科長 (平成29年4月～現在に至る)</p>	
教育上の業績	<ul style="list-style-type: none"> ○広島大学非常勤講師「高次脳機能障害」担当 (平成16年～現在に至る) ○高知リハビリテーション学院非常勤講師「高次脳機能障害」担当 (平成7年～現在に至る) ○西九州大学（佐賀県神埼市）非常勤講師「高次脳機能障害作業療法学」担当 (平成20年～平成23年) ○国際医療福祉大学非常勤講師「神経心理学概論」担当 (平成19年～平成21年) ○北九州リハビリテーション学院非常勤講師「高次脳機能障害」担当 (平成14年～平成21年) ○国立療養所福岡東病院附属リハビリテーション学院非常勤講師「高次脳機能障害」担当 (平成7年～平成17年) ○国立療養所呉病院附属リハビリテーション学院非常勤講師「ボバースアプローチ」担当 (平成13年～平成18年) ○日本作業療法士協会 認定作業療法士取得講座講師 (平成16年～現在に至る) ○日本作業療法士協会 専門作業療法士（高次脳機能障害）取得講座講師 (平成25年～) ○回復期リハビリテーション病棟協会 セラピストマネージャーコース講師 	

主な研究活動	【著書・論文】
	「片麻痺患者が非麻痺側から歩き始めた場合と、麻痺側から歩き始めた場合の動的バランスの違い～動的バランス指標 Xcom を用いた分析～」 (共著) (理学療法科学 30(1),41-45,2015)
	「健全高齢者の排泄後の臀部清拭動作の分析」 (共著) (理学療法学 42 (2) :98-104,2015)
	“The sit-to-walk motion of patients with stroke: Relationship between movement fluidity and physical ability” 「脳卒中患者が座位から歩きはじめ動作：動作の円滑性と身体能力の関係」 (共著) Journal of the Japanese Physical Therapy Association (JJPTA)
	「効果的な介入のために ADL を客観的にとらえる～応用動作の分析」 (共著) (日本リハビリテーション医学会 57 (7):392-298,2015)
	「右前頭頂葉損傷により空間認知の障害を呈した症例への評価と介入～身体図式と姿勢制御に着目して～」 (共著) (ボバースジャーナル:38 (1) :31-41, 2015)
	「次世代を担う人材の育成 ～臨床における人材の育成と卒後教育のシステム～」 (共著) (福岡・作業療法(13):16-24, 2015)
	「当院における回復期脳卒中片麻痺患者の歩行自立判定指標の検討～どのレベルに達したら病棟内歩行フリーとするか～」 (共著) (Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science Vol6,2015)
	「片麻痺 (回復期から維持期) : 上肢を中心に」 (共著) (臨床実習フィールドガイド,石川朗、ほか(編),株式会社南江堂,東京,p58-69,2014)
	「片麻痺患者が起立動作に失敗する運動学的・運動力学的特徴～動的バランス指標 (Xcom) を用いた分析～」 (共著) (理学療法学 41(7):399-406,2014)
	「高次脳機能障害がある方への作業療法 ②プッシャー症候群」 (単著) (作業療法ジャーナル増刊号 VOL.48 NO.7 2014 三輪書店, pp659-664)
	「脳卒中のリハビリテーションとチーム医療」 (共著) (脳卒中のリハビリテーションとチーム医療 井林雪郎編集 メディカルレビュー社 2013. 1 p85-122)
	「脳卒中片麻痺患者の起立動作における運動学的・運動力学的評価指標」 (共著) (理学療法学 39(3):149-158,2012)
	作業療法学全書作業治療学 5 「高次脳機能障害」 編集 (協同医書出版)
	「第 1 章高次脳機能障害と作業療法,第 4 章評価と介入の実践課程」 (単著) (作業療法学全書作業治療学 5 高次脳機能障害:p1-7,53-76,2011,協同医書出版)
	「当院の回復期リハビリテーション病棟での取りくみーひとりひとりの明日のためにー」 (共著) (理学療法福岡 24:10-16,2011)
	「自閉症スペクトラムの地域での支援」 (共著) (OT ジャーナル 44: 198-203, 2010)
	「ボバース概念に基づく神経心理学的問題の評価と介入」 (共著) (脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション,梶浦一郎、ほか (編)市村出版,東京,p134-151,2010)
	【学会発表等】
	「鏡を用いた運動錯覚の生成における脳内活動の fNIRS による解析」 (第 50 回日本作業療法学会, 2016, 9)
「脳卒中片麻痺患者のバランス能力に影響を及ぼす因子の検討～自己身体能力の認識に着目して～」 (第 50 回日本作業療法学会, 2016, 9)	
「歩行に最少介助を要する脳損傷後片麻痺患者の動的バランスの特徴～歩行時の margin of stability を用いた介助群と自立群の比較～」 (第 51 回日本理学療法学会, 2016, 5)	
「脳血管障害患者における常食摂取者とソフト食摂取者を分ける要因の検討」 (第 22 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2016, 9)	
「回復期リハ病棟入院中の脳卒中片麻痺患者における屋外歩行自立判定に関する因子分析」 (回復期リハビリテーション病棟協会 第 27 回 研究大会 in 沖縄, 2016, 2)	

	<p>「回復期リハビリテーション病棟における脳卒中片麻痺患者の病棟トイレまでの歩行自立獲得までの日数を予測する回帰式の開発」 (回復期リハビリテーション病棟協会 第27回 研究大会 in 沖縄, 2016, 2)</p> <p>「脳損傷後片麻痺患者の前遊脚期における股関節・足関節運動戦略の特徴」 (第12回日本神経理学療法学会, 2015, 11)</p> <p>「退院後に歩行能力が低下した脳卒中片麻痺患者1症例の歩行改善に対する一考察」 (第5回日本ボバース学会研究大会, 2015, 8)</p> <p>「Foix-Chavany-Marie 症候(両側前弁蓋部症候群)を呈した症例の摂食嚥下障害に対するアプローチ」 (第16回日本語聴覚学会, 2015, 6)</p> <p>「動的バランス能力と認知機能の関連」(第49回日本作業療法学会, 2015, 6)</p> <p>「手指運動を用いたワーキングメモリ課題の施行過程における前頭葉活動変化 運動学習について - 操作手の違いによる考察を加えて -」 (第49回日本作業療法学会, 2015, 6)</p> <p>「発達に伴う小児歩行の運動力学的特徴 (第2報) 前顔面における重心制御の発達に着目して」 (第50回日本理学療法学会大会, 2015, 6)</p> <p>「脳損傷後片麻痺患者の歩行時における力学的エネルギー変換効率と体幹運動の関係性」 (第50回日本理学療法学会大会, 2015, 6)</p> <p>「フットケアに対する実態調査」 (回復期リハビリテーション病棟協会 第25回 研究大会 in 愛媛, 2015, 2)</p> <p>「回復期リハ病棟から在宅へ継続して介入を行った一症例」 (回復期リハビリテーション病棟協会 第25回 研究大会 in 愛媛, 2015, 2)</p> <p>「回復期リハビリテーション病棟における学童期の患者に対する復学支援について」 (回復期リハビリテーション病棟協会 第25回 研究大会 in 愛媛, 2015, 2)</p> <p>「健常高齢者の排泄後の殿部清拭動作の分析～殿部清拭方法別の難易度を探る～」 (第35回バイオメカニズム学会, 2014, 11)</p> <p>「間接訓練により嚥下障害が改善した左上顎歯肉癌術後の1例」 (第4回日本語聴覚士協会九州地区合同学術集会大分大会, 2014, 10)</p> <p>「家族が在宅生活を見通せるようになったことで、円滑に在宅復帰できた事例 —早期から家族と関わる重要性—」 (第16回世界作業療法連盟大会・第48回日本作業療法学会, 2014, 06)</p> <p>「片麻痺患者が起立動作に失敗する運動学的・運動力学的特徴～なぜ片麻痺患者は起立に失敗するのか～」 (第49回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2014, 05)</p> <p>「脳損傷後片麻痺歩行における歩行周期別力学的エネルギー変換率と運動機能との関連性」 (第49回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2014, 05)</p> <p>「発達に伴う乳幼児歩行の運動力学的特徴—推進機能に着目して—」 (第49回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2014, 05)</p> <p>「家族や病棟スタッフ間の連携により歩行が自立し、主婦として在宅復帰に至った一症例」 (回復期リハビリテーション病棟協会第23回研究大会 in 名古屋)</p> <p>「回復期退院後の在宅生活を見据えた指導後の追跡調査」 (回復期リハビリテーション病棟協会第23回研究大会 in 名古屋)</p> <p>「脳損傷後片麻痺患者の退院時実用移動レベルを予測可能な因子の検討と予測式の開発～初回担当時に得られる情報、評価項目を独立変数として用いて～」 (回復期リハビリテーション病棟協会第23回研究大会 in 名古屋)</p> <p>「当院における回復期脳卒中片麻痺患者の歩行自立判定因子の分析 (第3報) ～どのレベルに達したら病棟内歩行フリーとするか～」 (回復期リハビリテーション病棟協会第23回研究大会 in 名古屋)</p> <p>「操作手の違いによるワーキングメモリ課題時の前頭葉活動の検討 - fNIRS を用いた研究 -」 (第37回日本高次脳機能障害学会学術総会, 島根, 2013, 11)</p>
--	--

「自発的な ADL 遂行が困難となった症例との関わりを通して」 (第 35 回 PTOT 合同学会, 熊本, 2013, 11)
「高さ条件が異なる到達把持運動の分析 一体幹・上肢の運動学的特徴に着目して」 (第 35 回 PTOT 合同学会, 熊本, 2013, 11)
「排泄動作における後方からの後始末動作の分析」 (第 35 回臨床歩行分析研究会定例会, 青森, 2013, 11)
「なぜ、片麻痺患者は起立動作で失敗するのか ～動的バランス指標 (Xcom) を用い離殿の難しさを探る～」 (第 35 回臨床歩行分析研究会定例会, 青森, 2013, 11)
「頭蓋底髄膜腫術後嚥下障害をきたし、喉頭形成術を伴う嚥下リハビリテーションにより良好な転帰をたどった一例」 (第 19 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 岡山, 2013, 9)
「脳卒中片麻痺患者の立ち上がり動作の評価と介入 —三次元動作解析装置を用いた評価・分析と効果検証—」(第 3 回ポハース学会, 東京, 2013, 7)
「脳卒中片麻痺歩行の力学的エネルギー交換率からみた分析 —実用的移動自立度・立脚期での異常分類からみた検証—」 (第 3 回ポハース学会, 東京, 2013, 7)
“Does the Vitamin D multi-nutrient supplementation increase the fluidity of sit-to-walk motion in chronic stroke patients?” (2nd Joint World Congress of ISPGR and Gait & Mental Function, Akita, 2013,6)
「脳卒中片麻痺患者の片手による下衣操作の自立要素の検討 第 2 報—経時的変化を通して—」 (第 47 回日本作業療法学術大会, 大阪, 2013, 6)
「両側視床・後頭葉内側の損傷により記憶障害を主とした高次脳機能障害を呈した症例に対する作業療法介入」 (第 47 回日本作業療法学術大会, 大阪, 2013, 6)
「脳卒中片麻痺患者の歩行運動における力学的エネルギー変換率を低下させる要因」 (第 48 回日本理学療法学術大会, 名古屋, 2013, 05)
「片麻痺患者はどちらの足から歩き始めるほうが安全で効率的か～動的バランス指標 Xcom を用いた分析～」 (第 48 回日本理学療法学術大会, 名古屋, 2013, 05)
「脳血管障害片麻痺患者の歩行における体幹の角度変化量と歩行自立度及び下肢との関係」 (第 48 回日本理学療法学術大会, 名古屋, 2013, 05)
「片麻痺患者における起立動作時の上下肢連合反応が歩き始め動作に及ぼす影響」 (第 38 回日本脳卒中学会総会, 東京, 2013, 03)
「片麻痺歩行における遊脚相の運動方略の違いが初期接地に及ぼす影響」 第 38 回日本脳卒中学会総会, 東京, 2013, 03
「脳損傷患者の ADL と前頭葉機能との関連」 (第 36 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 栃木, 2012, 12)
「片麻痺患者はどちらの足から歩き始める方が良いのか～動的バランス指標 (Xcom) を用いた分析～」 (第 34 回臨床歩行分析研究会定例会, 大阪, 2012, 11)
「高機能広汎性発達障害児の協調運動障害について～縄跳びに着目して～」 (第 33 回九州理学療法士、作業療法士合同学会, 長崎, 2012, 11)
「排泄後の後始末動作の分析」 (第 33 回九州理学療法士、作業療法士合同学会, 長崎, 2012, 11)
“Inefficiency of Choosing the Non-affected Leg as the First Swing Leg in the Sit-to-Walk Motion after Stroke”(1st Joint World Congress of ISPGR and Gait & Mental Function, Norway, 2012,6)
「視覚に基づく運動と記憶に基づく運動における前頭葉活動の検討— f NIRS による研究—」 (第 46 回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6)
「脳卒中片麻痺患者の片手による下衣操作の自立要素の検討」 (第 46 回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6)
「脳血管障害片麻痺患者の到達把持運動に着目した麻痺側上肢の評価の有用性」 (第 46 回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6)

「条件の違いによるワーキングメモリ課題の前頭葉活動の検討 - f NIRS を用いた研究 -」 (第 46 回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6)
「脳血管障害片麻痺患者の到達運動の分析」 (第 46 回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6)
「座位リーチ動作の力学的特性と上衣更衣動作の自立度との関連性」 (第 46 回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6)
「脳血管障害片麻痺患者の動的バランス能力に関連する円滑さの分析 ～下肢関節トルク変化の円滑さが身体重心制御に与える影響～」 (第 47 回日本理学療法学術大会, 兵庫, 2012, 5)
「徒手誘導前後におけるパフォーマンスの変化と大脳皮質活動の検討 - f NIRS を用いて -」 (第 47 回日本理学療法学術大会, 兵庫, 2012, 5)
「地域高齢者における運動が認知機能に及ぼす影響について」 (第 47 回日本理学療法学術大会, 兵庫, 2012, 5)
「脳血管障害片麻痺患者における歩行時の杖使用有無が与える影響～対称性に着目した分析～」 (第 37 回日本脳卒中学会総会, 福岡, 2012, 05)
「片麻痺患者が座位から歩き始める動作の分析～初期接地戦略と動作の円滑性の関係～」 (第 37 回日本脳卒中学会総会, 福岡, 2012, 05)
「f NIRS による前頭葉課題施行中の脳活動の測定についての検討 ～脳卒中患者の特徴～」 (第 37 回日本脳卒中学会総会, 福岡, 2012, 05)
「当院回復期リハ病棟における早遅リハの現状と課題」 (全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 19 回研究大会, 京都, 2012, 2)
「回復期リハ病棟から訪問リハへの継続的リハビリテーションを経験して - 自宅退院後の移動に着目して -」 (全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 19 回研究大会, 京都, 2012, 2)
「回復期リハビリテーション病棟退院後の追跡調査～退院時から 6 ヶ月間の FIM 変化～」 (全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 19 回研究大会, 京都, 2012, 2)
「当院回復期リハビリテーション病棟における退院前訪問指導の現状と課題」 (全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 19 回研究大会, 京都, 2012, 2)
「回復期退院後の自宅生活における FIM の変化傾向について」 (全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 19 回研究大会, 京都, 2012, 2)
「片麻痺患者が座位から歩き始める際の第一歩目の初期接地戦略と動作の円滑性の関係」 (第 33 回臨床歩行分析研究会定例会, 福岡, 2011, 12)
「座位リーチ動作の力学的特性と上位更衣動作との関連性」 (第 33 回臨床歩行分析研究会定例会, 福岡, 2011, 12)
「重度側弯症者の歩行時右側下肢疲労感に対する力学的考察 — 青年期脳性まひ者における体幹装具装着前後での比較 —」 (第 33 回臨床歩行分析研究会定例会, 福岡, 2011, 12)
「脳血管障害片麻痺患者の歩行時における杖使用有無が与える影響 — 麻痺側・非麻痺側の対称性に着目した分析 —」 (第 33 回臨床歩行分析研究会定例会, 福岡, 2011, 12)
「脳血管障害者の到達把持運動に着目した麻痺側上肢機能の評価と有用性」 (第 33 回臨床歩行分析研究会定例会, 福岡, 2011, 12)
「脳卒中片麻痺患者の下衣操作自立度判定の指標の検討 — 下衣操作の自立度と足上げ動作との関連性 —」 (第 33 回臨床歩行分析研究会定例会, 福岡, 2011, 12)
「f NIRS によるワーキングメモリ課題時の前頭葉活動の検討」 (第 35 回日本高次脳機能障害学会, 鹿児島, 2011, 11)
「f NIRS による視覚に基づく運動と記憶に基づく運動における前頭葉活動の検討」 (第 35 回日本高次脳機能障害学会, 鹿児島, 2011, 11)

	<p>「多彩な前頭葉症状により食事が困難であった症例の介入経過」 (第35回日本高次脳機能障害学会, 鹿児島, 2011, 11)</p> <p>「低酸素脳症により全般的認知障害を呈しADL介助が困難であった症例への作業療法介入」 (第35回日本高次脳機能障害学会, 鹿児島, 2011, 11)</p> <p>「視覚情報処理の問題により食事に多介助を要した事例への取り組み」(共著) (第35回日本高次脳機能障害学会, 鹿児島, 2011, 11)</p> <p>「三次元動作解析装置による排泄後の後始末動作の分析」 (第33回九州理学療法士、作業療法士合同学会, 福岡, 2011, 11)</p> <p>「重量が異なる対象物への到達把持運動の動作解析 第2報 ～把持運動における手関節制御に着目した分析～」 (第33回九州理学療法士、作業療法士合同学会, 福岡, 2011, 11)</p> <p>“Difference of the motor strategy between sit-to-walk and gait-initiation of patients after stroke.” (20th ESMAC Congress, Vienna, 2011, 9)</p> <p>「起立動作に対する治療の客観的効果判定方法の一例 —三次元動作解析装置を用いてパフォーマンスの質的变化を探る—」 (第1回日本ボバース研究会学術大会, 東京, 2011, 7)</p> <p>「当院における Dynamic Spinal Brace の試み—1 症例を通して—」 (第1回日本ボバース研究会学術大会, 東京, 2011, 7)</p> <p>「片麻痺患者—1症例における重心動揺検査を用いた治療結果の検証 —歩行自立度の経過と足圧中心動揺パラメーターの変化—」 (第1回日本ボバース研究会学術大会, 東京, 2011, 7)</p> <p>「脳血管障害片麻痺者の歩行動作に対する運動力学的解釈の一例 三次元動作解析装置を用いた定量的運動学的評価の検討」 (第1回日本ボバース研究会学術大会, 東京, 2011, 7)</p> <p>「脳卒中片麻痺患者の麻痺側手の管理 —長期経過者の現状—」 (第45回日本作業療法学術大会, さいたま, 2011, 6)</p> <p>「脳血管障害片麻痺者の麻痺側下肢最大荷重課題と歩行との関係—荷重姿勢の質的評価として—」 (第46回日本理学療法学術大会, 宮崎, 2011, 5)</p> <p>「脳血管障害片麻痺者における坐位バランスと歩行能力との関係 (第2報) ～坐位側方移動時の骨盤・上部体幹・頭部に注目して～」 (第46回日本理学療法学術大会, 宮崎, 2011, 5)</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本作業療法士協会 認定作業療法士、専任作業療法士取得講座講師 ・ 回復期リハビリテーション病棟協会 理事、同協会 PTOTST 委員会委員 ・ IBITA 認定ボバースアプローチ基礎講習会インストラクター (平成12年～) ・ IBITA 認定ボバースアプローチ上級講習会インストラクター (平成22年～)
所属学会	<p>日本作業療法士協会 日本高次脳機能障害学会 日本神経心理学会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 臨床歩行分析研究会 高次脳機能障害作業療法研究会 回復期リハビリテーション病棟協会</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科、作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間と環境 ・リハビリテーション概論 <p>[リハビリテーション学部 作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ ・作業療法学概論 ・基礎義肢装具学 ・臨床作業療法学演習Ⅰ ・臨床義肢装具演習 ・福祉住環境 ・作業療法研究法 ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ <p>[九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康科学研究法特論講義 ・環境健康生活特論Ⅰ、環境健康生活特論Ⅱ <p>[東筑紫短期大学 専攻科 (介護福祉専攻)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー論
専 門 分 野	■作業療法 (手の外科領域)
最 終 学 歴	琉球大学 法文学部 人文学科
学 位	学士 (人文学)
職 歴	<p>千葉労災病院 (昭和48年～昭和50年)</p> <p>熊本赤十字病院 (昭和50年～昭和56年)</p> <p>熊本機能病院 (昭和56年～平成6年)</p> <p>沖縄リハビリテーション福祉学院 (平成6年～平成18年)</p> <p>熊本保健科学大学 (平成18年～平成27年)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科長 (平成27年4月～平成29年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授 (平成27年4月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科 教授 (平成27年4月～現在に至る)</p>
教育上の業績	【作成した教材、教科書等】
	<p>1. 「手の外傷と作業療法：作業療法マニュアル5 手の外科と作業療法」 日本作業療法士協会：pp49-69. (協同医書, 1995.)</p> <p>2. 「上肢と手の外傷：作業療法学全書第4巻 作業治療学Ⅰ, 身体障害」 日本作業療法士協会監修：pp145-146. (協同医書, 2008.)</p> <p>3. 「セラピストのための概説リハビリテーション」 (編集：文光堂, 2009.)</p>
主な研究活動	<p>1. 上肢運動機能の定量的解析</p> <p>2. スプリントの適応と効果</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科、作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食と農園 <p>[リハビリテーション学部 作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法学概論 ・人間発達学 ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ ・発達障害評価論演習 ・発達障害作業療法学 ・活動解析演習 ・作業療法研究法 ・臨床作業療法学演習Ⅰ ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ <p>[食物栄養学部 食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション概論
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■発達障害作業療法 ■特別支援教育 ■地域支援 ■家族支援
最 終 学 歴	福岡県立大学大学院 人間社会学研究科
学 位	修士（生涯発達）
職 歴	<p>社会福祉法人別府発達医療センター（旧別府整肢園）（昭和62年4月）</p> <p>労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校作業療法学科（平成7年1月）</p> <p>専門学校九州リハビリテーション大学校作業療法学科 講師（平成16年4月～平成19年3月）</p> <p>専門学校九州リハビリテーション大学校作業療法学科 准教授（平成19年4月～平成27年3月）</p> <p>九州栄養福祉大学リハビリテーション学部作業療法学科 准教授（平成24年4月～平成27年3月）</p> <p>九州栄養福祉大学リハビリテーション学部作業療法学科 教授（平成27年4月～現在に至る）</p>
教育上の業績	<p>○別府発達医療センターにて作業療法実習生の指導（昭和62年～平成6年12月）</p> <p>○日本作業療法士協会主催生涯教育講座 発達障害分野の講師（平成16年～）</p>
主な研究活動	<p>【著書】</p> <p>「機能的姿勢—運動スキルの発達」（共著）：協同医書出版社、1997.5</p> <p>「神経発達学的治療と感覚統合理論」（共著）：協同医書出版社、2001.6</p> <p>「福祉用具専門相談委員指定講習会テキスト」（共著）：（財）総合健康推進財団、2004.8</p> <p>「セラピストのためのリハビリテーション医療」（共著）：永井書店、2005.12</p> <p>「服部リハビリテーション技術全書」（共著）：医学書院、2014.4</p> <p>【学術論文】</p> <p>「遊びを支援するコンピュータ入力デバイスの開発」（共著）： ：（労働福祉事業団平成12年度医学研究結果報告書第11号、2001.3）</p> <p>「関係性を重視した子どもとその家族の発達支援に関する理論的背景とその実践 間主観性から見た関係性の理論」（単著）：（福岡県作業療法ジャーナル 第4号、2004.5）</p>

	「知的障害を持つ児童の書字学習に対する発達心理学的支援 (単著) : (臨床発達心理実践研究、第3巻、2008.7)
	「環境・人・物との関係性の改善をめざして 福祉機器・用具は障害を持つ子どものために役に立っているか」(単著) : (福祉介護機器 TECHNO プラス Vol.1, No.11、2008.11)
	「療育支援センターに来談する学童児の社会性発達支援 (単著) : (福岡県作業療法ジャーナル 第9号、2010.5)
	「臨床実習における学生の行動および認知特性尺度の開発-ソーシャルスキル、 ストレスコーピングとの関連性-」: (九州栄養福祉大学研究紀要、第8巻、2011.12)
	「手のラテラルリティに影響する要因の検討- 箸・鉛筆の作業活動を用いた探索的研究-」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第9巻、2012.12)
	「長期臨床実習における学生の健康状態および実習態度に関する社会心理学的研究」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第10巻、2013.12)
	「臨床実習を終了した学生の内面的発達に関する社会心理学的研究」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第11巻、2014.12)
	「学内実習農園の開設と行事・教科教育としての実践」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第12巻、2015.12)
	「掌中操作と日常生活活動との関連性について」 : (九州栄養福祉大学研究紀要、第13巻、2016.12)
	【学会発表】
	「精神運動発達遅滞児における遊びに必要なスキルの獲得過程とその意味について」(単著) : (第7回福岡県作業療法学会、2000.2)
	「手を口に入れる子どもの対応を考える: 14歳女児との作用療法を経験して」(単著) : (第8回福岡県作業療法学会、2001.2)
	「パソコンを利用した電子絵本の紹介とその実用性 (単著) : (第35回日本作業療法学会、2001.6)
	乳児発達支援における間主観的アプローチの試み (単著) : (第9回福岡県作業療法学会、2002.2)
	「動的バランス練習のためのバランスボード型コンピュータ入力デバイスの試作 (単著) : (第24回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2002.11)
	「乳幼児を持つ母親の育児感情と養育態度に関する構造分析とその特徴」(単著) : (第33回全国リハビリテーション技師会全国研修会、2003.9)
	「育児期母親が子どもの態度を負担と感じる要因の検討」(単著) : (第25回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2003.11)
	「補講期間に行ったポートフォリオ的戦略学習法の可能性について」(共著) : (第39回日本作業療法学会、2005.6)
	「発達障がいを持つ子どもの地域支援と家族支援 教科学習の支援プログラムについて」(単著) : (第11回福岡県作業療法学会、2006.2)
	「発達障害を持つ子どもの家族支援と地域支援の現状 療育支援施設での実践」(単著) : (第40回日本作業療法学会、2006.6)
	「発達障害を持つ子どもの教育上の問題とその対応 引き算の思考分析と課題設定」(単著) : (第12回福岡県作業療法学会、2007.2)
	「知的障害を持つ子どもの書字学習に対する発達心理学的支援」(再掲) (単著) : (日本臨床発達心理士会 第3回全国大会、2007.7)
	「集団適応の難しい児童の場面認知の特徴について SST を試みた事例報告」(単著) : (第13回福岡県作業療法学会、2008.2)
	「乳幼児、学童児の学習及び行動の問題に対する発達心理学的支援 (単著) : (第7回東アジアヘルスプロモーション会議、2009.9)

	<p>「特別支援教育に関わる作業療法士の役割について」(単著) : (第 31 回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2009.11)</p> <p>「長期臨床実習における学生の行動特性について」(共著) : (第 32 回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2010.11)</p> <p>「長期臨床実習における学生の行動特性の変化について」(共著) : (第 33 回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2011.11)</p> <p>「長期臨床実習における学生の健康状態及び実習態度と社会的スキルとの関連性」 : (第 16 回世界作業療法士連盟大会・第 48 回日本作業療法学会、2014.6)</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県田川保健福祉事務所 発達相談員 (平成 10 年 4 月～現在に至る) ・田川市保健センター 発達相談員 (平成 11 年 4 月～現在に至る) ・北九州市介護認定審査会 審査委員 (平成 11 年 4 月～現在に至る)
所属学会	<p>日本作業療法士協会</p> <p>日本発達心理学会</p> <p>日本臨床発達心理士会</p>
受賞歴	<p>功労賞(北九州市)</p>

所属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担当科目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科、作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療人のための科学論 ・医療人のための経営管理 <p>[リハビリテーション学部 作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報処理演習Ⅰ、情報処理演習Ⅱ ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ ・臨床統計、臨床統計（旧カリキュラム）（集中） ・作業療法研究法 ・卒業論文
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> ■プロジェクトマネジメント、 ■情報教育 ■ICT利活用
最終学歴	大阪市立大学大学院 創造都市研究科システムソリューション研究分野修了
学位	修士（都市ビジネス）
職歴	<p>株式会社日本総合研究所（日本総研）（昭和58年）</p> <p>新潟経営大学経営情報学部（平成20年）</p> <p>北九州市立大学情報総合センター（平成24年）</p> <p>九州栄養福祉大学リハビリテーション学部（平成28年4月～現在に至る）</p>
教育上の業績	大学教育に従事
主な研究活動	<p>【著書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 『ビジネス情報の基礎』（単著）DTP出版（平成20年3月） 2. 『ビジネス情報の応用～プロジェクト管理編～』（単著）DTP出版（平成20年3月） 3. 『ビジネス情報の応用～法制度編～』（単著）DTP出版（平成21年9月） 4. 『ビジネスにおけるICT活用の基礎』（単著）大学教育出版（平成23年4月） 5. 『情報ネットワークのビジネス活用』（単著）三恵社（平成23年4月） 6. 『経営学新講義』（共著）経営情報担当 晃洋書房（平成23年3月） <p>【研究論文】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「リニューアルされた情報処理室、及び学生の情報リテラシー教育に関する現状と改善提案」（単著）『新潟経営大学紀要』、第16号、81-95頁（平成22年3月） 2. 「ICTを活用した融資業務の可能性」（単著）『新潟経営大学紀要』第17号、77-90頁（平成23年3月） 3. 「ICTの利活用および意識は高校の学科によりどのように異なるのか？」（単著）日本情報科教育学会誌、Vol4、No1、35-40頁（平成23年12月） 4. 「高校の学科によるICTの利活用および意識の違い」（単著）『新潟経営大学紀要』、第18号、11-21頁（平成24年3月） 6. 「上流工程において成功に近づく調達マネジメントの工夫」（単著）プロジェクトマネジメント学会誌、Vol15、No6、3-8頁（平成25年12月） 7. 「PBL（Project Based Learning）を実践しての気づき」（単著）プロジェクトマネジメント学会誌、Vol.16、No2、27-28頁（平成26年4月） 8. 「中小企業を対象としたICT利活用の実態調査」（単著）クラウドサービス推進機構（経営情報学会）IT経営ジャーナル Vol1、9-16頁（平成26年7月） 9. 「中小企業のICT利活用～一昔前からの変貌～」（単著）日本経営スポーツ学会総合研究年報、Vol.4、1-16頁（平成26年12月） 10. 「eラーニングを利用したプロジェクトマネジメント教育を考える」（単著）プロジェクトマネジメント学会誌、Vol.17、No2、27-31頁（平成27年4月）

11. 「初年次教育におけるタイピング練習とその関連性についての調査研究」(単著) 日本情報経営学会誌、Vol.36、No2、74-85 頁 (平成 27 年 12 月)
12. 「高校生の情報科授業に対する興味についての調査研究」(単著) 九州栄養福祉大学研究紀要、第 13 号、249-258 頁 (平成 28 年 12 月)
13. 「初年次における情報機器の活用能力についての調査研究」(単著) 九州栄養福祉大学研究紀要、第 13 号、239-248 頁 (平成 28 年 12 月)
14. 「消費者の科学的リテラシー向上を利用した経営戦略に関する研究」(共著) 新潟経営大学共同研究報告書 (平成 22 年 3 月)
15. 「中小企業クラスター地域の経営戦略調査研究」(共著) 関西ベンチャー学会誌、Vol.6、38-42 頁 (平成 26 年 3 月)
16. 「わが国の中小企業クラスター地域における経営戦略 —競争優位にたつことができるコアコンピタンスについての—考察—」(共著) 関西ベンチャー学会誌、Vol.7、41-45 頁 (平成 27 年 3 月)
17. 「日本の中小企業経営戦略調査 - イノベーション、ビジョン、ミッションの—考察—」(共著) 関西ベンチャー学会誌、Vol.8、73-78 頁 (平成 28 年 3 月)
18. 「動画視聴における事前学習の試み ～身体に障害をもつ患者を対象にして～」(共著) 九州栄養福祉大学研究紀要、第 13 号、275-286 頁 (平成 28 年 12 月)

【研究発表】

1. 「システム開発における調達マネジメントのあり方」(単著) 『プロジェクトマネジメント学会 2007 年度春季研究発表大会予稿集』、東洋大学 (平成 19 年 3 月)
2. 「途上と信管理における IT 活用の考え方」(単著) 『日本情報経営学会 2007 年度全国大会予稿集』、新潟国際情報大学 (平成 19 年 6 月)
3. 「高校生を対象とした ICT に関する意識調査」(単著) 『日本情報経営学会 2011 年度全国大会予稿集』、神戸大学 (平成 23 年 7 月)
4. 「中小企業 (新潟県) を対象とした ICT 利用調査報告」(単著) 関西ベンチャー学会九州研究部会、ロイヤルパークホテルザ福岡 (平成 25 年 2 月)
5. 「ICT 利活用の実態調査 ～新潟県の中小企業から～」(単著) 関西ベンチャー学会九州研究部会、福岡国際ホール (平成 26 年 2 月)
6. 「Win-Win の関係を目指す外部委託における提案」(単著) 『プロジェクトマネジメント学会 2014 年度春季研究発表大会予稿集』、東洋大学 (平成 26 年 3 月)
7. 「コンピュータリテラシー授業のタイピング調査」(単著) 『日本情報科教育学会第 2 回研究会予稿集』、大学コンソーシアム大阪 (平成 26 年 3 月)
8. 「中小企業 (新潟県) を対象とした ICT 利活用の実態と提案」(単著) 『日本情報経営学会 2014 年度全国大会予稿集 (春号)』、大正大学 (平成 26 年 5 月)
9. 「新入生のタイピング能力は何と影響するのか?」(単著) 『日本情報科教育学会第 7 回全国大会講演論文集』、千歳科学技術大学 (平成 26 年 7 月)
10. 「PBL を試行しての課題」(単著) 関西ベンチャー学会九州研究部会、福岡国際ホール (平成 26 年 8 月)
11. 「Moodle を活用したタイピング練習とその影響に関する調査研究」(単著) 『教育改革 ICT 戦略大会資料』、私立大学情報教育協会、アルカディア市ヶ谷 (平成 26 年 9 月)
12. 「データ入力から捉えたコンピューターリテラシー教育」(単著) 『日本情報経営学会 2014 年度全国大会予稿集 (秋号)』、ホテル日航八重山 (平成 26 年 11 月)
13. 「文系学生のネット依存状況調査」(単著) 関西ベンチャー学会九州研究部会、博多第一ホテル (平成 27 年 8 月)
14. 「新入生を対象としたネット依存の調査研究」(単著) 『日本情報経営学会 2015 年度全国大会予稿集 (秋号)』、尾道市立大学 (平成 27 年 11 月)
15. 「文系新入生の情報機器活用能力についての調査研究」(単著) 『経営情報学会 2015 年秋季全国研究発表大会予稿集 (電子版)』 沖縄コンベンションセンター (平成 27 年 11 月)

	<p>16. 「経営学を学ぶ中部地方の大学生を対象としたネット依存調査」(単著) 関西ベンチャー学会九州研究部会、博多第一ホテル (平成 28 年 2 月)</p> <p>17. 「いまどきの大学生のネット依存に関する調査研究」(単著) 『教育改革 ICT 戦略大会資料』、私立大学情報教育協会、アルカディア市ヶ谷 (平成 28 年 9 月)</p> <p>18. 「高校生が情報関係の授業に取り組む姿勢～積極度合を 4 段階で区分し分析すると?」(単著) 関西ベンチャー学会九州研究部会、博多第一ホテル (平成 29 年 2 月)</p> <p>19. 「文系学生に対するタイピング指導を通じた教育効果の分析」(共著) 『大学教育学会第 36 回 (2014 年) 大会要旨集』、名古屋大学 (平成 26 年 6 月)</p> <p>20. 「作業療法士の養成における反転授業の試み」(共著) 『教育改革 ICT 戦略大会資料』、私立大学情報教育協会、アルカディア市ヶ谷 (平成 28 年 9 月)</p> <p>21. 「スマートフォン時代の大学生とインターネット依存性に関する研究調査 ～入学難易度とネット依存的傾向から見ると～」(共著) 『日本情報経営学会 2016 年度全国大会予稿集 (秋号)』、九州産業大学 (平成 28 年 9 月)</p>
	<p>【特許】(特許権設定登録済)</p>
	<p>1. 特許 4475999 号 「住宅ローン審査システム、住宅ローン審査用プログラムおよび住宅ローン判定支援用プログラム」 (平成 22 年 3 月)</p> <p>2. 特許 4601028 号 「印刷出力装置、印刷出力システム、印刷出力方法および記録媒体」(平成 22 年 10 月)</p> <p>3. 特許 4783594 号 「途上与信管理システム、途上与信管理システム用プログラムおよび途上与信管理方法」 (平成 23 年 7 月)</p> <p>4. 特許 5020523 号 「将来残高情報生成方法、及び将来残高情報生成システム」(平成 24 年 6 月)</p>
	<p>【その他】</p>
	<p>1. 「大学研究室紹介～九州栄養福祉大学岩田研究室～」(単著) プロジェクトマネジメント学会誌、Vol.18、No5、60-61 頁 (平成 28 年 10 月)</p>
主な社会活動	<p>・市民講座講師、企業家育成事業、新聞社や広報誌等への取材協力 等</p>
受賞歴	<p>米国 PMI (Project Management Institute, Inc.) プロジェクトマネジメント学会 経営情報学会 日本情報経営学会 日本情報科教育学会 コンピュータ利用教育学会</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科、作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション (旧カリキュラム) <p>[リハビリテーション学部 作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ ・基礎作業実習Ⅰ、基礎作業実習Ⅱ ・レクリエーション ・地域移行精神障害作業療法学 ・臨床作業療法学演習Ⅰ ・作業療法研究法 ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅰ (学内) ・臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ
専 門 分 野	■精神障害系作業療法
最 終 学 歴	労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校
称 号	専門士
職 歴	<p>福岡県精神保健センター (平成3年6月～平成9年3月)</p> <p>福岡県立遠賀病院 (平成9年4月～平成15年3月)</p> <p>福岡県立精神医療センター太宰府病院 (平成15年4月～平成17年3月)</p> <p>専門学校 九州リハビリテーション大学校 作業療法学科 助手 (平成17年4月～平成19年3月)</p> <p>専門学校 九州リハビリテーション大学校 作業療法学科 助教 (平成19年4月～平成23年3月)</p> <p>専門学校 九州リハビリテーション大学校 作業療法学科 講師 (平成23年4月～平成27年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 講師 (平成25年4月～平成28年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 准教授 (平成28年4月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>【作成した教科書・教材】</p> <p>○「服部リハビリテーション技術全書第3版」第8章 レクリエーション その他</p>
主な研究活動	<p>1)「痴呆アセスメントマニュアル」 (共著)</p> <p>2)「北九州医療刑務所での作業療法」 (単著)</p> <p>3)「精神科作業療法士の興味苦悩—福岡・佐賀精神科 OT 懇話会会員実態調査より—」 (共著)</p> <p>4)「精神科作業療法士の現状—福岡・佐賀精神科 OT 懇話会会員実態調査より—」 (共著)</p> <p>5)「デイ・ケア利用者のフォローアップ調査」 (共著)</p> <p>6)「デイ・ケアプログラムの固定化に伴うメンバーの変化」 (共著)</p> <p>7)「在宅痴呆性高齢者の類型化 (2) —類型化された各タイプの特徴—」 (共著)</p> <p>8)「在宅痴呆性高齢者の類型化 (3) —類型判別用紙の作成について—」 (共著)</p>
主な社会活動	<p>1)第32回 九州理学療法士・作業療法士合同学会 座長 (平成22年5月)</p> <p>2)福岡県作業療法協会 小倉南・京築エリア研修会 講師 (平成23年8月)</p> <p>3)日本作業療法協会専門作業療法士取得研修 認知症基礎Ⅴ 講師 (平成24年1月)</p> <p>4)福岡県作業療法協会 八幡西・遠賀・中間エリア研修会 講師 (平成24年10月)</p> <p>5)第17回 福岡県作業療法学会 座長 (平成25年3月)</p>

	6)若松区医療・介護従事者研修会 講師 7)第 18 回 福岡県作業療法学会 座長 8)日本作業療法協会 精神科分野研修会 テーマ I 講師 9)福岡県立戸畑高等技術専門校 介護サービス科実務者研修 講師 10)周望学舎シニアカレッジ 11)まなびと ESD 講座 12)第 21 回 福岡県作業療法学会 座長	(平成 25 年 8 月) (平成 26 年 2 月) (平成 27 年 9 月) (平成 21 年 6 月～現在に至る) (平成 18 年 10 月～現在に至る) (平成 26 年 6 月～現在に至る) (平成 29 年 2 月)
所属学会	日本作業療法学会 九州理学療法士・作業療法士合同学会 福岡県デイ・ケア研究協議会 九州集団療法研究会	

所属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担当科目	〔リハビリテーション学部 作業療法学科〕 <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ ・身体障害評価論演習Ⅰ、身体障害評価論演習Ⅱ ・作業療法研究法 ・認知機能障害評価論演習 ・臨床作業療法学演習Ⅰ ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ
専門分野	■身体障害作業療法 ■高次脳機能障害
最終学歴	鹿児島大学大学院 保健学研究科博士後期課程単位取得後退学
学位	修士（保健学）
職歴	玉昌会 加治木温泉病院・高田病院 神村学園専修学校 作業療法学科 教員 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 講師 (平成26年4月～平成29年3月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 講師 (平成29年4月～現在に至る)
教育上の業績	○神村学園医療福祉専門学校作業療法学科 非常勤講師 (平成14年4月)
主な研究活動	【学術論文】 <ol style="list-style-type: none"> 1) 秋武祐子、山下正策、日吉俊紀、梅本昭英、四元孝道、窪田正大、浜田博文： 注意訓練が注意以外の認知機能に及ぼす影響 (鹿児島リハビリテーション研究会会誌第19(1):9-14, 2008) 2) 山内愛、四元孝道、日吉俊紀、梅本昭英、浜田博文、窪田正大： 側視空間無視における注意障害と pacing 障害の関連性の研究 (作業療法ジャーナル 43(2):188-192, 2009) 3) 窪田正大、四元孝道、浜田博文： 血管障害患者における注意障害とペーシング障害の時間評価に関する研究 (鹿児島大学医学部保健学科紀要第20:31-36, 2010) 4) 四元孝道、窪田正大、浜田博文： 脳血管障害患者における注意障害とペーシング障害の関連性に関する研究 (鹿児島大学医学部保健学科紀要 20: 37-43,2010.) 5) 四元孝道、窪田正大、山内愛、日吉俊紀、浜田博文： 脳血管障害患者の意欲障害と ADL 自立度の関係および損傷部位に関する研究 (作業療法ジャーナル 44(5): 411-414,2010.) 6) 四元孝道：注意障害を伴う脳血管障害患者に対する dual task 訓練の効果に関する研究 (作業療法 30(4): 466-475,2011.) 7) 廣滋恵一、四元孝道、室井由紀子： 表面筋電図を用いた咀嚼筋活動量評価と記憶力の関連性について (九州栄養福祉大学紀要 12:11-18, 2015) 8) 四元孝道、高橋精一郎、廣滋恵一、長尾哲男、奥村克博、渡邊恭弘、萩原隆二： 座位バランス訓練装置の開発（第2報）—片麻痺患者のバランス反応— (九州栄養福祉大学紀要 12：87-94, 2015)

	<p>9) <u>四元孝道</u>、佐野幹剛、松田隆治： 臨床実習における大学へのフィードバックと行動認知特性尺度の報告 <small>(九州栄養福祉大学紀要 12 : 95-103, 2015)</small></p> <p>10) 神崎良子、木村美子、吉田大輔、<u>四元孝道</u>、室井廣大、石橋敏郎、大丸幸： リハビリテーション学部における就職支援について <small>—学生に対する就職アンケートの分析から— (九州栄養福祉大学紀要 13 : 195-205, 2016)</small></p> <p>11) <u>四元孝道</u>、高橋精一郎、廣滋恵一、長尾哲男、奥村克博、渡邊恭弘、島田康裕： 座位バランス訓練装置の開発 (第3報) —症例報告— <small>(九州栄養福祉大学紀要 13 : 259-264, 2016)</small></p>
【学会発表】	
	<p>1) 秋武祐子、山下正策、日吉俊紀、梅本昭英、<u>四元孝道</u>、窪田正大、浜田博文： 注意訓練が注意以外の認知機能に及ぼす影響 <small>第22回 鹿児島リハビリテーション医学研究会(2008.3)</small></p> <p>2) <u>四元孝道</u>、山内愛、小川千穂、金田明子、増永美奈、立山栄香、城ノ下唯子、溜いずみ、山下智子： 特定高齢者に対する認知症予防教室—県士会の活動として— <small>第32回 九州PTOT合同学会 (2010.11)</small></p> <p>3) 長尾哲男、高橋精一郎、廣滋恵一、<u>四元孝道</u>、大山美智江、坂田栄二、奥村克博、渡邊恭弘、友延憲幸： 座位バランス訓練装置の開発 第31回 リハ工学カンファレンス (2016.8)</p> <p>4) 島田康裕、日吉俊紀、堀之内啓介、廣滋恵一、<u>四元孝道</u>： 座位バランス訓練装置の紹介とその影響について <small>第50回 日本作業療法学会 (2016.9)</small></p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島高次脳機能障害者支援推進委員 (平成17年～平成23年) ・一般社団法人鹿児島県作業療法士会理事 (平成19年～平成23年) ・始良市・霧島市認知症予防教室講師 (平成19年～現在に至る) ・認知症キャラバンメイト (平成20年～現在に至る) ・国立・県立鹿児島障害者職業能力開発校 障害者委託訓練講座講師 (平成21年～平成23年) ・認知症予防ファシリテーター2級 (平成23年～現在に至る) ・北九州リハビリテーション医会 講師 (平成26年10月) ・福岡県作業療法士会研修会 講師 (平成27年2月) ・九州栄養福祉大学市民公開講座 講師 (平成26・27・28年11月)
所属学会	<p>一般社団法人日本作業療法士協会 <small>(認定作業療法士・高次脳機能障害専門作業療法士)</small></p> <p>日本高次脳機能障害学会、日本神経心理学会</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担 当 科 目	〔リハビリテーション学部 作業療法学科〕 <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ ・身体障害作業療法学Ⅰ、身体障害作業療法学Ⅱ ・日常生活活動支援 ・高齢期障害作業療法学 ・臨床作業療法学演習Ⅰ ・高齢者生活環境 ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・作業療法研究法 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■身体障害作業療法 ■高齢期障害作業療法 ■高次脳機能障害
最 終 学 歴	鳥取大学大学院 医学系研究科機能再生医科学専攻博士後期課程単位取得退学
学 位	修士（再生医科学）
職 歴	<p>高邦会 高木病院（作業療法室開設）作業療法士（昭和63年4月）</p> <p>高邦会 柳川リハビリテーション病院（作業療法室開設）作業療法室副室長（平成2年4月）</p> <p>介護老人保健施設しょうぶ苑（リハビリテーション室開設）作業療法士（平成3年4月）</p> <p>鹿児島医療技術専門学校作業療法学科専任教員（平成9年3月）</p> <p>メディカルカレッジ青照館開設準備室作業療法学科専任教員（平成11年10月）</p> <p>日本メディカル専門学校作業療法学科専任教員（平成15年2月）</p> <p>松江総合医療専門学校作業療法士科専任教員・学科長（平成17年4月）</p> <p>神戸総合医療専門学校作業療法士科専任教員（平成26年8月）</p> <p>九州栄養福祉大学 講師（平成27年4月）</p> <p>九州栄養福祉大学 准教授（平成29年4月～現在に至る）</p>
教育上の業績	<p>○専門職養成を目指した入学前課題の導入（平成23年～平成26年）</p> <p>○新入生の早期退学の抑制を目的として、</p> <p style="padding-left: 20px;">1, 2年生対象の宿泊研修や卒業生の講演会・交流会の実施（平成23年～平成26年）</p> <p>○グループ学習の導入学習として、グループディスカッションの効果体験を実施（平成23年～平成28年）</p> <p>○臨床実習対策として、「疾患別ノート」の作成支援を実施（平成27年～平成28年）</p> <p>○国家試験対策において、国家試験対策スケジュールの管理や進捗状況の把握、学内模試・学外模試の成績管理を徹底し、特に学内・学外模試実施後は当日中に結果を本人に返却し、苦手科目や学習方法についてフィードバックを行った。（平成27年～平成28年）</p>
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <p>1) 「視覚野損傷後の回復における視覚入力の影響」(修士論文) 鳥取大学大学院医学系研究科</p> <p>2) 「作業療法教育に必要な指導観(第1報)ー専門学校と大学の比較ー」 (九州栄養福祉大学研究紀要12. 105-114, 2015)</p> <p>3) 「作業療法教育に必要な指導観(第2報)ー専門教育の中でのアクティブラーニングの活用についてー」 (九州栄養福祉大学研究紀要13. 265-273, 2016)</p>

【学会発表】	
	1) 「当院作業療法対象患者の入院までの経過調査」(共同) 第84回熊本リハビリテーション研究会 (平成2年12月 熊本)
	2) 「心理的評価MAS と他の評価との関連について」(共同) 第85回熊本リハビリテーション研究会 (平成3年4月 熊本)
	3) 「リハ病院入院患者のMAS と家族の受け入れ状況との関連について」(共同) 第25回日本作業療法学会 (平成3年6月 北海道)
	4) 「Effects of visual inputs on recovery after excitotoxic lesion of visual cortex」(筆頭) 第85回日本生理学会大会 (平成20年3月 東京)
	5) 「脳損傷後の回復における感覚入力の影響」(筆頭) 第42回日本作業療法学会 (平成20年6月 長崎)
	6) 「専門学校から大学への移行に伴う入学生の変化」(筆頭) 第29回教育研究大会・教員研修会 (平成28年8月香川)
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀県立総合看護学院保健学科非常勤講師 (平成6年～8年) (3年間) ・鹿児島県母子寡婦福祉連合会主催ヘルパー3級講習会講師 (平成10年) ・第20回九州理学療法士・作業療法士合同学会 教育セッション座長 (平成10年) ・鹿児島県母子寡婦福祉連合会主催ヘルパー2級講習会講師 (平成11年) ・島根県社会福祉協議会主催ガイドヘルパー養成研修会講師 (平成18年～平成20年) (3年間) ・島根県作業療法士会現職者研修会(旧新人教育プログラム)「研究法」講師 (平成18年) ・東筑紫短期大学専攻科非常勤講師「バリアフリー論」 (平成28年) ・島根県作業療法士会現職者研修会「職業倫理」講師 (平成22年) ・佐賀県作業療法士会 学術部理事 (平成5年) ・鹿児島県作業療法士会 監事 (平成9年) ・日本作業療法士協会教育部 教育関係資料収集委員会委員 (平成9年) ・日本作業療法士協会教育部 部員 (平成11年) ・島根県作業療法士会 監事 (平成22年)
所属学会	日本作業療法士協会 日本生理学会

所属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担当科目	<p>[リハビリテーション学部 作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎作業 ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ ・基礎作業実習Ⅱ ・急性期精神障害作業療法学 ・臨床作業療法学演習Ⅰ ・職業関連支援 ・作業療法研究法 ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ
専門分野	■精神障害作業療法分野
最終学歴	放送大学大学院 文化科学研究科 文化科学専攻 修士課程修了
学位	修士 (学術)
職歴	<p>医療法人社団わかさ会 南八街病院 (平成16年4月～平成18年9月)</p> <p>医療法人社団爽風会 佐々木病院 (平成18年9月～平成25年3月)</p> <p>医療法人社団爽風会 心の風クリニック千葉 (平成25年4月～平成26年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 (平成27年4月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>○学校メンタルヘルスリテラシー教育講師 (平成23年9月～平成24年12月)</p> <p>○『OT 臨地実習ルートマップ』臨地実習実技編「摂食障害」領域 (共著) (平成23年3月)</p>
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <p>平澤勉, 野際陽子: 「デイケア終了後の復職を予測するものは何か?」 (作業療法 30 (6) : 707-716, 2011)</p> <p>野際陽子, 平澤勉: 「うつ病復職支援デイケアの早期介入で大切なこと」 (障害者職業センター職リハ研究会発表論文集 (第19回) : 283-286, 2011)</p> <p>平澤勉, 野際陽子: 「入院うつ病患者に対する作業療法の効果」 (作業療法 32 (6) : 536-546, 2013)</p> <p>【学会発表】</p> <p>平澤勉, 野際陽子: 「うつ病復職デイケア利用者を対象とした気分と疲労の傾向について」 第44回日本作業療法学会 (2010)</p> <p>野際陽子, 平澤勉: 「疲労の回復は、復職支援デイケア利用者の復職を予測するか?」 第7回日本疲労学会 (2011)</p> <p>平澤勉, 野際陽子: 「新しいタイプの多様な精神科患者に対し、気分や不快な思考に治療的効果のある、OTプログラムと作業遂行の質とは?」 第45回日本作業療法学会 (2011)</p> <p>野際陽子, 平澤勉: 「うつ病復職デイケア利用早期に何が変化すると復職できるか?」 第45回日本作業療法学会 (2011)</p> <p>野際陽子, 平澤勉: 「リワークデイケア早期に何が変化すると復職できるのか?」 第18回日本産業精神保健学会 (2011)</p> <p>平澤勉, 野際陽子: 「うつ病患者はOTの何に満足するのか?」 第46回日本作業療法学会 (2012)</p> <p>野際陽子, 平澤勉: 「うつ病者の回復段階に合わせた効果的な介入方法について」 第46回日本作業療法学会 (2012)</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科	
担 当 科 目	[リハビリテーション学部 作業療法学科] ・基礎作業 ・基礎作業実習Ⅰ ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ ・精神障害評価論演習 ・作業療法研究法 ・地域移行精神作業作業療法学 ・臨床作業療法学演習Ⅰ、臨床作業療法学演習Ⅱ ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ	
専 門 分 野	■精神障害作業療法評価学 ■精神障害作業療法治療学	
最 終 学 歴	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻	
学 位	修士 (保健医療学)	
職 歴	労働福祉事業団 総合せき損センター (昭和62年4月～平成3年2月) 医療法人 和光会 見立病院 (平成3年3月～平成11年3月) 学校法人平松学園 大分リハビリテーション専門学校 (平成11年4月～平成15年3月) 福岡国際医療福祉学院 (平成15年4月～平成18年3月) 学校法人 福岡保健学院 小倉リハビリテーション学院 (平成18年4月～平成22年3月) 同学校法人 八千代リハビリテーション学院 (平成22年4月～平成24年3月) 同学校法人 福岡和白リハビリテーション学院 (平成24年4月～平成29年3月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 講師 (平成29年4月～現在に至る)	
教育上の業績	○島根リハビリテーションカレッジ 非常勤講師 (平成13年5月～平成14年6月) 同学校法人 福岡看護専門学校 非常勤講師 (平成24年4月～平成29年3月) ○福岡和白リハビリテーション学院 シラバス作成 (平成24年5月～平成28年8月) ○福岡和白リハビリテーション学院 臨床実習記録作成 (平成25年4月～平成27年3月)	
主な研究活動	【学術論文】 木村利和, 上田利一, 小川修 自動膀胱で反射性排尿を行う男子頸髄損傷者の排尿動作の自立 (作業療法 8(1):18-23 1989) 広重靖, 木村利和, 上田利一, 小川修 頸髄損傷者の排尿動作自立に向けて (作業療法 8(5):708-714 1989) 木村利和, 広重靖, 上田利一, 小川修 頸髄損傷者に関する上肢残存機能分類について (総合リハビリテーション 19(8):813-821 1989) 木村利和, 広重靖, 上田利一, 小川修 頸髄損傷者に関する総合せき損センター式上肢機能分類表に基づく日常生活活動の自立の可能性 (総合リハビリテーション 21(1):1994)	
	【学会発表】 小川修, 中山広宣 ストレスに対する作業活動の効果 第41回日本作業療法学会 (2007) 小川修 当学校法人における臨床実習について 第29回 教育研究大会・教員研修会 (2018)	

主な社会活動	<ul style="list-style-type: none">・福岡県田川市社会福祉協議会 認知症高齢者の家族支援の会委員及び講師 (平成8年5月～平成8年6月)・福岡県作業療法協会主催「研究法について」 (平成20年6月～平成21年6月)・福岡県作業療法協会 福岡東ブロック主催「臨床実習指導の在り方 昨今の学生特性を考慮して」 (平成25年11月)
所属学会	日本作業療法士協会 福岡県作業療法協会 同協会 福利部委員

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法ゼミナールⅠ、作業療法ゼミナールⅡ、作業療法ゼミナールⅢ ・基礎作業実習Ⅱ ・日常生活活動分析論演習 ・身体障害評価論演習Ⅱ ・日常生活活動支援 ・認知機能障害評価論演習 ・職業関連支援 ・高齢期障害作業療法学 ・臨床作業療法学演習Ⅰ ・作業療法研究法 ・作業療法基礎演習 ・作業療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅱ (学内) ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ <p>[東筑紫短期大学 専攻科 (介護福祉専攻)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー論
専 門 分 野	<p>■身体障害作業療法</p> <p>■日常生活活動</p>
最 終 学 歴	西九州大学大学院健康福祉学研究科リハビリテーションコース終了
学 位	修士 (健康保健学)
職 歴	<p>特別医療法人春回会 長崎北病院 (平成 13 年 4 月)</p> <p>医療法人行晴会 鉦先医院 (平成 16 年 4 月)</p> <p>一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院 (平成 19 年 12 月)</p> <p>医療法人社団久英会 高良台リハビリテーション病院 (平成 24 年 4 月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 助教 (平成 28 年 4 月～現在に至る)</p>
教育上の業績	作業療法士養成校の臨床実習生の教育指導 (平成 20 年～平成 24 年)
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <p>田平隆行 太田保之 上城憲治 植田友貴 宮田浩紀 松尾崇史 長谷川隆史 松坂誠應： 「高次脳機能障害の職業適性能力に関する研究—厚生労働省編— 一般適性検査 (事務所用) T 版を用いて—」 (日本作業療法学会 16 (1) : p31-35 2013)</p> <p>中野沙織 内山園子 佐藤大介 福山真生 松尾崇史 長谷川隆史 宮田浩紀 田平隆行： 「表情の違いが Go/No-go 課題遂行時の反応時間に及ぼす影響」 (西九州リハビリテーション 7 : p11-16 2014)</p> <p>佐藤大介 中野沙織 内山園子 福山真生 松尾崇史 長谷川隆史 宮田浩紀 田平隆行： 「外傷性脳損傷による高次脳機能障害者の職業適性能と認知機能との関係」 (西九州リハビリテーション 7 : p17-21 2014)</p> <p>箆島知佳 石井都萌 土井貴裕 横田浩輝 松尾崇史 長谷川隆史 宮田浩紀 田平隆行： 「眼から判断する表情認知の表情特異性に関する研究」 (西九州リハビリテーション 8 : p23-27 2015)</p> <p>宮田浩紀 岩田一男： 「動画視聴における事前学習の試み～身体に障害をもつ患者を対象にして～」 (九州栄養福祉大学研究紀要第 13 号 : p275-286 2016)</p>

	<p>【学会発表】</p> <p>松尾理恵 室谷直美 出口友喜 友利幸之介 宮田浩紀 草野加奈 浜辺由美子 瀬戸牧子： 「365 日対応のリハビリテーションを実施して一休日リハの関わりを通して」 (第 36 回日本作業療法学会 2002 広島)</p> <p>原田宗一郎 大久保篤史 松尾理恵 友利幸之介 出口友喜 西村洋子 宮田浩紀 加藤雅一： 「当院における回復期リハビリテーション病棟のあり方を考える ～退院後の在宅訪問調査を通して～」 (第 37 回日本作業療法学会 2003 北九州)</p> <p>宮田浩紀 松尾崇史 田平隆行： 「高次脳機能障害者の職業適性能力と前頭前野の活動動態について」 (第 47 回日本作業療法学会 2013 大阪)</p> <p>Hironori Miyata Takashi Matsuo Tatsuhiko Fukahori Kanako Terasaki Takayuki Tabira： “The vocational aptitude using the General Aptitude Test Battery in traumatic brain injury with high brain dysfunction” (第 16 回世界作業療法士連盟大会 第 48 回日本作業療法学会 2014 横浜)</p> <p>宮田浩紀 長谷川隆史 松尾崇史 田平隆行： 「疼痛から注意を逸らすことによる認知的効果～痛み関連電位 (Pain related P250) を用いた研究～」 (第 8 回作業療法研究学会 2014 名古屋)</p> <p>長谷川隆史 宮田浩紀 佐賀里昭 田平隆行： 「実作直後は運動イメージは強化され体性感覚野の入力動態を変化させるか」 (第 49 回日本理学療法学会 2014 横浜)</p> <p>宮田浩紀 長谷川隆史 松尾崇史 田平隆行： 「課題に注意を向けることが主観的痛みと痛み関連電位に及ぼす影響」 (第 49 回日本作業療法学会 2015 神戸)</p> <p>Takayuki Tabira, Takashi Matsuo, Akira Sagari, Naoki Iso & Hironori Miyata： “Cognitive Effect of Diverting Attention From Pain Using Self-Select Interest and No-Interest Tasks.” (6th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2015 New Zealand)</p> <p>丸田道雄 高橋弘樹 韓旻熙 宮田浩紀 田平隆行： 「自己選択や外的報酬が反応時間と P300 に及ぼす影響」 (第 10 回日本作業療法研究学会学術集会 2016 新潟)</p> <p>高橋弘樹 丸田道雄 韓旻熙 宮田浩紀 田平隆行： 「運動課題と精神的ストレスが痛み関連脳電位に及ぼす影響」 (第 10 回日本作業療法研究学会学術集会 2016 新潟)</p> <p>宮田浩紀 岩田一男： 「作業療法士の育成における反転授業の試み」 (教育改革 ICT 戦略大会 2016 東京)</p> <p>丸田道雄 高橋弘樹 韓旻熙 宮田浩紀 田平隆行： 「課題内容を自分で選択することは視覚的反応や認知処理反応を促進するのか？」 (第 50 回日本作業療法学会 2016 札幌)</p>
<p>主な社会活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 42 回 日本作業療法学会 運営スタッフ (平成 20 年) ・ 脳外傷プラム長崎・佐賀・福岡 研修キャンプ (平成 22 年～) ・ 認知症介護予防事業講師養成講座研修会 (平成 24 年～平成 25 年) ・ 第 18 回 長崎県作業療法学会 演題採択委員長 (平成 23 年) ・ 楽しく食べて健口教室 (平成 24 年～平成 26 年) ・ おたっしや出張講座 (平成 25 年～平成 27 年) ・ 北九州市立 年長者研修大学校 周望学舎シニアカレッジ 講師 (平成 28 年)
<p>所属学会</p>	<p>日本作業療法士協会 福岡県作業療法士会 日本作業療法研究学会</p>